科目名：基礎看護学方法論Ⅶ	配当年次２年	開講時期　　２年後期
単位・時間：　１単位（　３０時間）	授業の方法：講　義	
担当者：　大場　有子	実務経験のある教員による授業　□	

授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 事前課題として、注射（静脈、筋肉、皮下）静脈採血、内服与薬の方法（食後、食前、食間）誤嚥防止策、直腸内与薬、温罨法、冷罨法、持続点滴中の観察項目チェックリストの手順書を作成し、教科書を中心として講義を行い、手順書の修正も行いながら学習する。その後、実際に手順書を使用して、物品の準備から技術の実践を演習で行う事で、イメージがつき、知識として習得する事が出来るよう授業を進める。 感染防止の基本は、標準予防策であり、その基本方針と具体策を学ぶ事が重要である。更に看護師は医師の行う検査や治療行為の介助を行うとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に関わるため、検査や治療は安全に行われ、正確な結果を得る必要がある。よって安全、安楽、正確に実践できる技術を学ぶ。 疾病の治療・予防の一つである与薬・注射は、医師の指示のもとに行われる為、看護師は医療専門職としての職業倫理の観点から、対象者の安全・安楽を確保するための確かな知識・技術、倫理的な態度を兼ね備える必要がある。罨法による治療では、寒冷・温熱刺激に対する体の感覚や耐性など、個人・年齢・習慣・疾病の状況・皮下脂肪・皮膚の萎縮などによって異なることや、身体各部で刺激に対する反応が違うことなどを理解したうえで、効果的罨法の技術を学習する。包帯法においては、創傷の保護や骨折などの治療を目的として身体に装着する各種の衛生材料と、対象の身体・心理的安楽を与える技術を学習する。 1. 感染予防の正しい知識を学習し身に着ける。 2. 検体採取や検査時の介助及び看護技術を、安全、安楽、正確に実践できる技術を学び、演習で実践する。 3. 与薬、注射の対象者の安全・安楽を確保するための確かな知識・技術、倫理的な態度を兼ね備える必要性を学び適切かつ効果的に実施できる知識、技術を習得する。 4. 効果的罨法の技術を学習し、演習にて実践できる。 5. 包帯法において創傷の保護や骨折などの治療を目的として身体に装着する各種の衛生材料と、対象の身体的・心理的安楽を与える技術を学習し、演習にて実践できる。
授業の計画	【授業計画】 1. 感染予防の基礎知識 2. 防護用具着脱・無菌操作 3. 検査時の看護・針刺し事故防止 4. 採血の看護・技術 5. 治療・処置の看護 6. 包帯法 7. 与薬における法的責任と看護の役割 8. 直腸内与薬・経皮、外用薬の基礎知識 9. 注射の基礎知識と実際 10. 静脈内注射の基礎知識と実際 11. 罨法の基礎知識と効果 12. 罨法法の実践（実習室） 13. 14 実習室にて技術演習 （採血、注射の看護技術） 15. 終講試験
成績評価の方法・基準	筆記試 70%・手順書 30%
テキスト	【教科書】 系統看護学講座　基礎看護学　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 【参考文献】 岡庭　豊：看護技術がみえる①　メディックメディア　2015. 岡庭　豊：看護技術がみえる②　メディックメディア　2015.
履修上の注意事項	レポート課題は、提出時間を守ること。遅れた場合は、評価の対象にならない。 実習室を使用しての授業では、指定された身支度が整わないと授業に出席できない。 身だしなみ（髪型、化粧、白衣）の自己チェックを強化する。